

別表第2（第3条関係）

分野名	内 容	要件
①移動支援	高齢者等の外出をサポートし、荷物等を安全に運搬できるロボット技術を用いた歩行支援機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用者が一人で用いる手押し車型（歩行車、シルバーカー等）の機器。</li> <li>・高齢者等が自らの足で歩行することを支援することができる。搭乗するものは対象としない。</li> <li>・荷物を載せて移動することができる。</li> <li>・モーター等により、移動をアシストする。（上り坂では推進し、かつ下り坂ではブレーキをかける駆動力がはたらくもの。）</li> <li>・4つ以上の車輪を有する。</li> <li>・不整地を安定的に移動できる車輪径である。</li> <li>・通常の状態又は折りたたむことで、普通自動車の車内やトランクに搭載することができる大きさである。</li> <li>・マニュアルのブレーキがついている。</li> <li>・雨天時に屋外に放置しても機能に支障がないよう、防水対策がなされている。</li> <li>・介助者が持ち上げられる重量（30kg以下）である。</li> </ul>
	高齢者等の屋内移動や立ち座りをサポートし、特にトイレへの往復やトイレ内での姿勢保持を支援するロボット技術を用いた歩行支援機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で使用する又は一人の介助者の支援の下で使用できる。</li> <li>・使用者が自らの足で歩行することを支援することができる。搭乗するものは対象としない。</li> <li>・食堂や居間での椅子からの立ち上がりやベッドからの立ち上がりを主に想定し、使用者が椅座位・端座位から立ち上がる動作を支援することができる。</li> <li>・従来の歩行補助具等を併用してもよい。</li> </ul>
	高齢者等の外出等をサポートし、転倒予防や歩行等を補助するロボット技術を用いた装着型の移動支援機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用者が一人で用いる装着型の機器。</li> <li>・自立歩行できる使用者の転倒に繋がるような動作等を検知し、使用者に通知して、転倒を予防することができる。または、自立して起居できる使用者の立ち座りや歩行を支援できる。</li> <li>・歩行補助具等を併用してもよい。</li> </ul>
②排泄支援	排泄物の処理にロボット技術を用いた設置位置の調整可能なトイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用者が、居室で用いる便器。排泄物のおいが室内に広がらないよう、排泄物を室外へ流す、又は、容器や袋に密閉して隔離する。</li> <li>・室内での設置位置を調整可能であること。</li> </ul>
	ロボット技術を用いて排泄を予測し、的確なタイミングでトイレへ誘導する機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用者が装着する場合には、容易に着脱可能であること。</li> <li>・使用者の生体情報等に基づき排尿又は排便を予測することができる。</li> <li>・予測結果に基づき的確なタイミングで使用者をトイレに誘導することができる。</li> </ul>
	ロボット技術を用いてトイレ内での下衣の着脱等の排泄の一連の動作を支援する機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用者が一人で使用する又は一人の介助者の支援の下で使用できる。</li> <li>・トイレ内での下衣の着脱等の排泄の一連の動作を支援することができる。</li> </ul>

③見守り・コミュニケーション	介護施設において使用する、センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の要介護者を同時に見守ることが可能。</li> <li>・施設内各所にいる複数の介護従事者へ同時に情報共有することが可能。</li> <li>・昼夜問わず使用できる。</li> <li>・要介護者が自発的に助けを求める行動（ボタンを押す、声を出す等）から得る情報だけに依存しない。</li> <li>・要介護者がベッドから離れようとしている状態又は離れたことを検知し、介護従事者へ通報できる。</li> <li>・認知症の方の見守りプラットフォームとして、機能の拡張又は他の機器・ソフトウェアと接続ができる。</li> </ul>
	在宅介護において使用する、転倒検知センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の部屋を同時に見守ることが可能。</li> <li>・浴室での見守りが可能。</li> <li>・暗所でも使用できる。</li> <li>・要介護者が自発的に助けを求める行動（ボタンを押す、声を出す等）から得る情報だけに依存しない。</li> <li>・要介護者が端末を持ち歩く又は身に付けることを必須としない。</li> <li>・要介護者が転倒したことを検知し、介護従事者へ通報できる。</li> <li>・要介護者の生活や体調の変化に関する指標を、開発者が少なくとも1つ設定・検知し、介護従事者へ情報共有できる。</li> <li>・認知症の方の見守りプラットフォームとして、機能の拡張又は他の機器・ソフトウェアと接続ができる。</li> </ul>
	高齢者等とのコミュニケーションにロボット技術を用いた生活支援機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者等の日常生活全般が支援対象となり得る。</li> <li>・高齢者等の言語や顔、存在等を認識し、得られた情報を元に判断して情報伝達ができる。</li> <li>・双方向の情報伝達によって高齢者等の活動を促し、ADL（日常生活活動）を維持向上することができる。</li> </ul>
④入浴支援	ロボット技術を用いて浴槽に出入りする際の一連の動作を支援する機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要介護者が一人で利用できる又は一人の介助者の支援の下で利用できる。</li> <li>・要介護者の浴室から浴槽への出入り動作、浴槽をまたぎ湯船につかるまでの一連の動作を支援できる。</li> <li>・機器を使用しても、少なくとも胸部まで湯に浸かることができる。</li> <li>・要介護者の家族や他の利用者が入浴する際に邪魔にならないよう、介助者が一人で取り外し又は収納・片付けをすることができる。</li> <li>・特別な工事なしに設置できる。</li> </ul>
⑤介護業務支援	ロボット技術を用いて、見守り、移動支援、排泄支援をはじめとする介護業務に伴う情報を収集・蓄積し、それを基に、高齢者等の必要な支援に活用することを可能とする機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共有する情報は、ロボット介護機器により得られたものとする。</li> </ul>